

## 一般演題【感染症】 高気圧酸素療法を併用した脊椎炎に対する 過去3年間の治療実績

西山和芳 谷川祐樹 兵藤好行

JA愛知厚生連 豊田厚生病院 臨床工学室

### 【背景】

2018年に診療報酬が改定され、高気圧酸素療法（以下HBO）の診療報酬が大きく改善されたことは記憶に新しいが、それ以降当院のHBOの治療状況も大きく変化を見せた。それまでの当院での高気圧酸素療法は、耳鼻科による突発性難聴、消化器外科による腸閉塞が主流であったが、それ以前より院内での普及活動を行ってきた甲斐もあり様々な診療科での治療が広まってきている。骨髄炎や放射線障害、難治性潰瘍や皮膚移植後など、それまで年間で1症例ほどであったものが件数を伸ばし、中でも脊椎炎に対するHBOの件数が増加傾向となっている。今回、脊椎炎に対する当院でのHBOの治療実績をまとめたところ、その有効性が高いのではないかと感じられたため報告させていただく。

### 【脊椎炎とHBO】

脊椎炎とは何らかの脊椎に細菌感染が起こっている状態であり、感染の大部分は血液を介したものであると言われている。そのほかにも尿路感染や虫菌による感染をすることもある。また、糖尿病、免疫抑制剤内服患者、透析患者、高齢者など免疫力の低い方に発症しやすい疾患であり、症状として感染した箇所の背中、腰の痛みが現れる。急性発症型、亜急性発症型、慢性発症型で症状の程度に違いがあり、採血、血液培養により起菌の同定を行い、抗菌薬による治療、MRIにより感染箇所の診断を行う。脊椎炎の治療に際し、HBOを併用することで種々の効果が得られより効果的な治療になると考えられる。

### 【過去3年間の治療実績】

2020年度の全HBO件数1225件中、脊椎炎79件（6.4%）、症例数4件であった。2021年度の全HBO件数1448件中、脊椎炎126件（8.7%）、症例数12件であった。2022年度の全HBO件数1546件中、脊椎

炎125件（8.0%）、症例数24件であった。診療報酬改定前の脊椎炎に対する治療数がほとんどなかったことを考えると、この3年間の治療実績は大幅に増えたのではないかとと思われる。

### 【治療の結果】

当院での治療効果の判定は依頼医に有効、やや有効、無効、不明の4段階で評価を依頼している。2020年度は症例数4症例であり、やや有効1例、不明3例であった。2021年度は症例数12症例であり、有効5件、やや有効1件、無効1件、不明5件であった。2022年度は症例数24件であり、有効7件、やや有効9件、無効1件、不明7件であった。尚、治療効果不明に関しては種々の事情による治療の途中中止によるものであった。また、治療前後での患者状態の比較を行なったが、治療前におけるベッド入室の患者は26件、車椅子入室は11件、独歩入室は3件であった。治療後のベッド入室の患者は18件、車椅子入室は15件、独歩入室は7件であった。

### 【考察】

炎症の起こっている患部は酸素分圧が低くなり抗菌薬の治療効果が発揮されない可能性がある。高気圧酸素療法を併用することで体内の酸素分圧が著しく向上し、抗菌薬の効果が上昇、白血球の殺菌作用の亢進などにより治療効果が底上げされることが期待される。脊椎炎に罹患した患者はその痛みから立ち上がることもままならず、一刻も早い症状の改善が望まれるが、結果からわかるように患者の状態は治療前に比べ治療後の方がよりADLが向上していることがわかる。同じ車椅子による移動であっても、車椅子から高気圧装置への移動時の動きが機敏になるなど、治療効果が現れているのではないかと考えられた。一般的に高気圧酸素療法はメジャーな治療とは言い難いがその有効性は明らかであり、今後も治療の一手段として役立てていきたいと考える。